

3月号



土浦一高(定時制)だより

卒業式 & 「星座」よい

土浦市真鍋 4 丁目 4-2
Tel. 029-822-0137



3月1日、土浦一高定時制の卒業式が本校アリーナでとり行われました。4年生12名、3年生12名の計24名が本校を巣立っていきました。三修三卒の生徒は3年生のじつに半数におよんでいます。式中の答辞では前生徒会長の加藤君より、学校での思い出や先生方に対する感謝の気持ちが熱く語られていました。また現生徒会長の塚本くんからは、先輩たちとの思い出とともに、先輩たちを見習ってこれからの学校生活を歩んでいく決意が、送辞の中で、はなむけの言葉として述べられました。

24名の卒業生のみなさん、社会の荒波に負けることなく、自分や周りの人たちを少しでも笑顔にできる存在となっていってください！





2月号で土浦一高定時制文集「星座」No.69の紹介を載せましたが、今回その中で、ある卒業生の文章を1つご紹介します。

美味しいごはんが食べたい

高校三年間、あっという間だった。入学し、素敵な友人たちに恵まれ、学校行事や定期試験など精一杯取り組み、アルバイトの両立もこなし、気が付けばもうすぐ卒業。中学校時代、まともに登校せずに引きこもっていた頃の自分とかけ離れた場所にいることを実感する度に、自信と充実感で満たされ、生きる活力が湧く。

今振り返ると、過去の自分は「大人になること」、すなわち「変わっていくこと」が怖かったのだらうと思う。

年月が過ぎるといのは、歳をとり、環境が変わり、自分のすべきことも変わり、自分に関わる人間も変わり、変わることだらけだ。人間は、こんなにめまぐるしく変化する人生を、人の道を踏み外さぬように必死に生きているのだ。すごいことだと思う。「人生楽しんだもん勝ち」という言葉があるが、まさにその通りだと思うようになった。

だって、人生ってめんどくさい！

朝起きるのだってめんどくさいし、勉強するのも働くのもめんどくさい。暑い夏や寒い冬に外に出るのもめんどくさい。家で美味しいものを食べて、ゲームをして、ゆっくりしていたい！

でも、めんどくさいことを頑張ってこなした後のごはんは、とてもおいしい。めんどくさいことを乗り越えた後、友達と遊ぶのは、めっちゃ楽しい。私はそれに気づいてしまったのだ。

大半の人は「あ～働きたくねえな」と思っているに違いない。私もそうだ。みんなそうだと思う。しかし、働かないで食う飯より、働いた後に食う飯の方が格段に美味しいのだ。「ずっと休みだったらいいな」という声を聞くと、わかっていないな、と思う。休暇というのは、たまにあるからこそありがたみを感じられ、満足することができるのだと思う。正直、引きこもり時代に食べるごはんは、あまりおいしくなかった。高校生になって、ごはんの美味しさに気づけた。美味しいごはんを食べると、生きる価値を見い出せないとか、大人になるのが怖いとかグダグダ悩む時間がもったいなく思える。

どうせ働くしかないのだ。現実逃避して、ニートとして世間の目に怯えながら食べる「まあまあのごはん」と、自分の納得のいく職場を見つけ、人のために一生懸命働いて食べる「とてもおいしいごはん」。

私は後者を選んで、生きる。私は卒業後、看護学校に進むが、皆声をそろえて「忙しいぞ、大変だぞ」という。美味しいごはんをモチベーションに頑張るつもりだ。

